

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

ノリ養殖の生産指導及び養殖状況調査

県北広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的・目標（指標）】

本県の主要水産物であるノリは、令和 6 年度(2024 年度)の生産額が 227 億円で全国 3 位（出典：全国漁連ノリ事業推進協議会資料）となっており、漁場環境の変化が著しい中、ノリ養殖業における安定生産は、管内のみならず本県水産業の重要課題である。

そこで、管内のノリ生産者に適切な生産・指導を行うため、漁期初期のノリ採苗状況調査（芽付け検鏡）を行うとともに、ノリ養殖状況調査によるノリ生産者及び関係機関へ迅速な情報共有を実施した。

【普及の内容・特徴】

（１）芽付け検鏡・巡回指導（令和 7 年（2025 年）11 月 7 日～10 日）

ノリの芽付き状況を確認するため、熊本県漁業協同組合連合会（以下「県漁連」という。）、熊本市及び水産研究センターと連携し、各漁協等で芽付け検鏡を実施した。また、各地域の芽付き状況を把握するとともに、生産者に対して現地で情報提供や指導・助言を行った。

（２）ノリ養殖状況調査（令和 7 年（2025 年）11 月 18 日～令和 8 年(2026 年)3 月 12 日）

県漁連、熊本市と合同で管内のノリ養殖場を巡回し、環境測定（水温、比重、プランクトン沈殿量）を行った。また、ノリ葉体を採集後、病害等の検鏡を実施し、その結果を調査当日にとりまとめ、管内漁協等へ速やかに情報提供した。

【成果・活用】

芽付け検鏡及び巡回指導では、漁協職員等と芽数のチェックをすることで、現場の検鏡精度の均一化・向上に貢献するとともに、その後の養殖指導に活用した。

ノリ養殖状況調査では、関係機関が協力して実施したことで、ノリの生長や病気等の情報、問題点の共有化ができ、より適切な指導ができた。また、調査結果は、「ノリ養殖速報」として管内漁協及び関係機関等へ調査当日に計 26 回情報提供を行った。なお、情報発信に当たっては、従来の FAX に加え、SNS を活用した海苔養殖業者グループでの共有も併用することで、より迅速に生産者へ情報

を届けることができた。

本年度は、昨年度に続き、高水温の影響により、採苗開始が過去最も遅い 11 月 6 日となった他、ベタ漁場のみで一斉撤去が行われる等、異例の養殖状況であった。そのため、養殖環境やノリの生育状況、病勢についての情報を速やかに関係者へ提供し、養殖業者が適切な養殖管理を行えるよう支援した。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

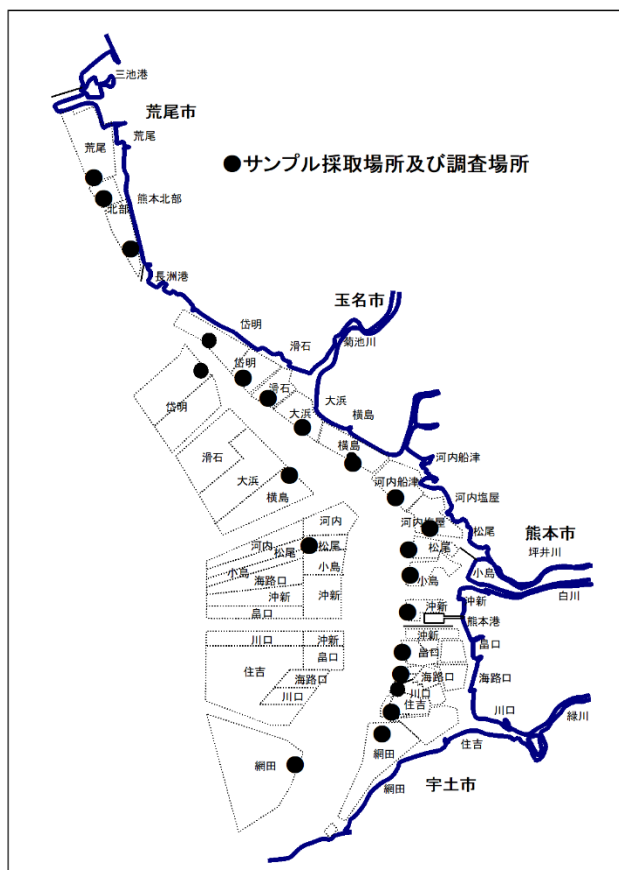


図 1 ノリ養殖漁場及び調査箇所



図 2 ノリサンプル採取



図 3 プランクトン採集



図 4 ノリ葉体検鏡観察



図 5 ノリ葉体サンプル